

# 四七日

よなぬか

浄土真宗の宗祖・親鸞聖人は一一七三年、京都の日野でお生まれになり、九歳で出家得度。そして一二〇年間、比叡山で学僧として修行され、下山して京都市内の六角堂で百日参籠さんろうされ、夢のお告げで法然上人の門下生になられました。それもこれも、比叡山での修行生活に絶望され、すべての人びとが平等に救われる道を求めつづけてこられたからです。お念佛ひとつで救われるという、専修念佛の法然上人についてあわれたのは、二十九歳のときでした。以来、越後や関東での生活、

そして京都に戻られて九十歳で往生されるまで、ひたすら、お念佛の道を人びとに説きつけられました。

関東時代の有名な伝説があります。ある吹雪の舞う夜、親鸞聖人が左衛門さえもんという下級武士に一夜の宿を乞うたところ、邪険じやけんに断られて、しかたなく門口で野宿されたといいます。ところがその夜、左衛門さえもんの夢枕ゆめまくらに観音さまがあらわれて、いま門前に阿弥陀如来がお見えになっている。おどろいて表に出た左衛門は、石を枕に雪の中でお念佛をとなえておられる親鸞聖人を見て前非ぜんひを悔い、親鸞聖人の説くお念佛の道に入つて名を道円どうえんと改めたというのです。親鸞聖人の伝道の旅のご苦労を偲ぶことができるエピソードです。

